

『e-ラーニング特別委員会』の発足

北海道支部 e-ラーニング特別委員会

1) まえがき

e-ラーニングの運用については、平成15年度から技術交流研究会において試行的に検討してきた。それらは、技術交流研究会セミナーや全国大会において実証実験を重ねた。特に、第31回全国大会では、会場フロアにおいてオンデマンド型と第4分科会とのライブ型実験を行い、高い評価を得、その後、日本技術士会事業委員会においても、技術士会全体として積極的な取り組みを検討中である。このe-ラーニングの全国展開手法を確立するためにも、北海道支部が先行する形で継続的に取り組んでいこうと考えている。よって、北海道支部「e-ラーニング特別委員会」が、ここに発足することになった。

2) e-ラーニング導入の目的

・CPD活動を高め、技術士の資質向上を図る

地方に在住する技術士のために、CPD活動の機会均等を図る方策のひとつとして本部の情報を各支部へ、支部の情報を各地方協議会等、「遠隔地学習」などの普及を実現する。

・社会貢献の展開と技術士の知名度向上を図る

日本技術士会21世紀ビジョン「社会貢献」の具体的方策のひとつとして、技術士の有する高度な技術をインターネットを介して、分かりやすく社会に提供する。

・技術の伝承を図る

形式知で伝承できない暗黙知となるノウハウについて、e-ラーニングのコンテンツとなるデジタル動画の蓄積により、各部門技術のライブラリを構築し、後世へ伝える。

3) 組織活動期間

期間は、当面2カ年を目途に検討実施する。その後正式機関を決定する。

4) メンバー

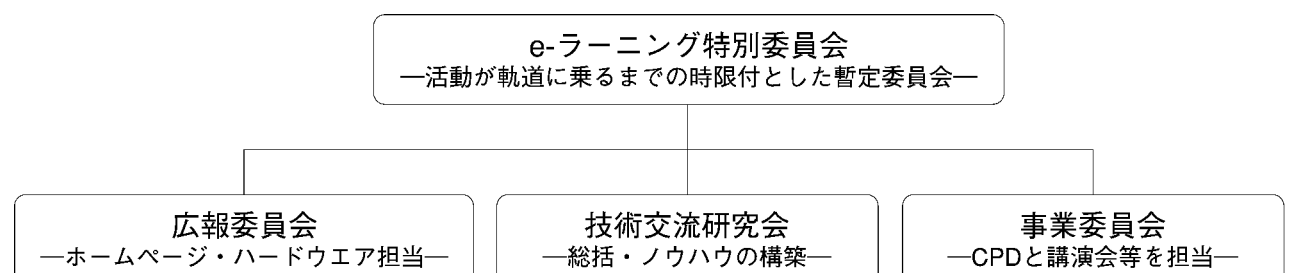
委員長：松井義孝（建設）

幹事：吉野大仁（水産・環境・総監）

委員：榎本義一（応理）、岡田昌樹（機械・総監）、小野孝（情報）、小山田応一（情報）、

北海道支部活動組織

組織は下図のごとく、既委員会からの兼任者とe-ラーニング経験者をもって特別委員会を構成する。



金秀俊（応理・総監）、鳥谷部晃綱（電気電子）、山上佳範（水産）

5) 活動の概要

日本技術士会事業委員会では、オンデマンド型eラーニングの実施に向けて、積極的に取り組み、その内容は、CPD研修（東京本部）のオンデマンド型を実施し、CPD教材となるコンテンツをCD-ROM化し、各支部へ配布することを検討している様である。

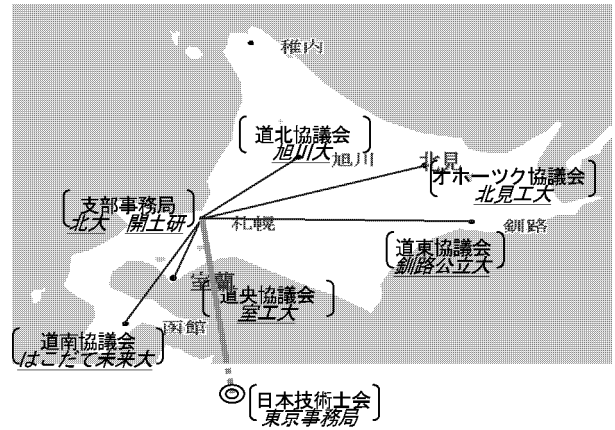
北海道支部では、先行実施の実績をもとに、日本技術士会事業委員会で取り組むeラーニングの推進を支援する。特に、北海道は右図に示すように札幌を中心に東西南北に地方協議会が発足し、全国版のミニモデルとして、格好の条件を満たしている。

当特別委員会では、eラーニングの段階的取り組みとして、平成17年度から18年度までの2カ年で種々の課題解決を図り、効果的展開を定着せたいと考えている。

Step I（平成17年度）オンデマンド型の推進

次ページにオンデマンド型システムの流れを示す。CPDの対象となる教育コンテンツを収録することから始まり、提供できる形式に編集し、実施する流れである。この流れの中で、当特別委員会は、次に示す4点の取り組みを推進する。

なお、北海道技術士センターホームページでは、下図のように、過去に収録したコンテンツの一部をインターネット上で公開している。



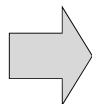
① オンデマンド型の収録および編集方法を標準化し、その成果物を本部等へ提供する。

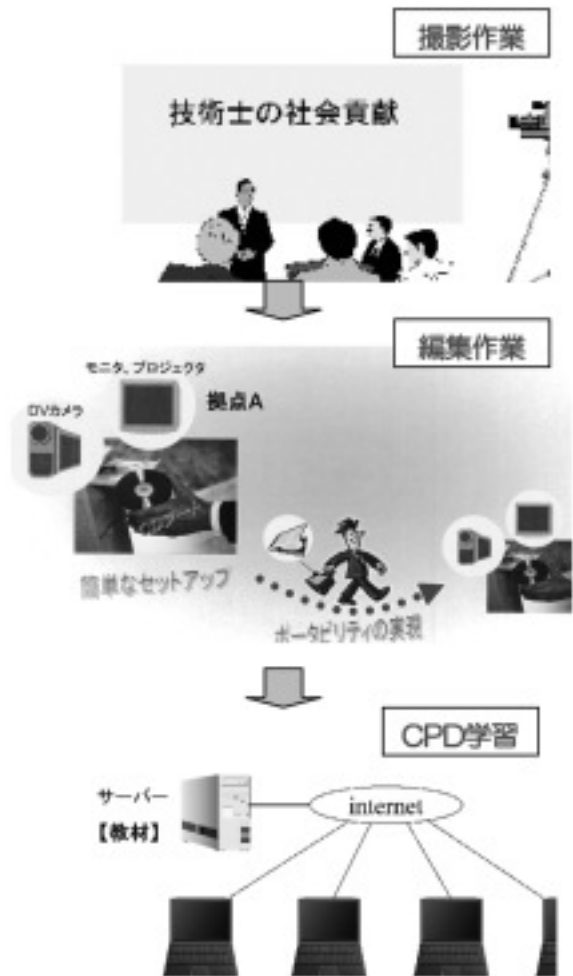
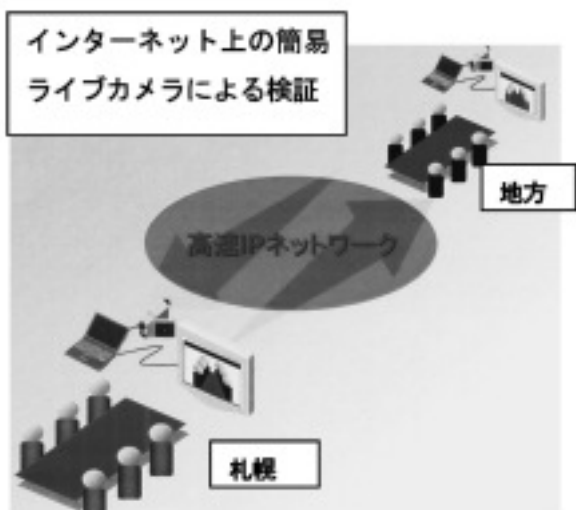
② 支部におけるコンテンツの収録は年6~8本行い、DVDやCD-ROMに格納し、本部と各地方協議事務局に配布する。

③ 最新版はインターネット上のホームページにて、3本程度配信し、いつでもどこでも閲覧できる体制を整える。
なお、全収録ストック一覧表はホームページ上にて講演概要要旨を含めて公開する。

④ 社会貢献とPRを兼ねた一般公開データも上記内容で法的に問題のない状況で提供する。

北海道支部が現在提供しているコンテンツ例





オンデマンド型システムの流れ

【試行的取り組み】簡易ライブ型の実証実験

本格的なライブ型を検証する1ステップ前に下図のような安価なパソコン用ライブカメラを用いた実験を行う。

- ・実験地域
 - ①支部（札幌）← 地方協議会
 - ②地域産官学と技術士とのセミナー（札幌9月）
- ・システム費用
既存設備を用いるため、費用は無料とする。
- ・実施課題
動画及び音声の精度、他
- ・テスト項目
 - ①札幌から地方協議会に公開ビデオデータをブロードバンド上で送信し、画像・音声の精度を確認する。
 - ②本システムは、動画において画像精度が劣ることが予想され、静止画像段階での質問等の音声確認のテストも行う。

【H17のめざす成果】

- ・オンデマンド型のシステム構築
オンデマンド型の手法を整理する。
- ・eラーニング実施に関わる法的問題の整理
eラーニング実施に関わる情報開示等の法的問題を検討整理する。
- ・ホームページ公開
ホームページ上でデータ一覧を作成し、最新版を3本程度を詳細に閲覧できる。

- ・地方協議会および本部技術委員会への情報提供
今年度検討整理されたものは、各地方協議会および本部事業委員会にCD-ROMにて成果を提供する

Step II（平成18年度）北海道内インターネットライブ型の確立

平成18年度は、平成17年度の成果であるオンデマンド型eラーニングの実施精度を高め、日本技術士会各支部対応に向けた促進を支援するとともに、当特別委員会と各地方協議会による2拠点間でライブ型eラーニングの実証実験を行う。

【インターネットライブ型eラーニングの実証実験】

- ・本モデルは、第31回全国大会札幌にてデモ公開したものである（下図参照）。
- ・実験地域は、北海道支部（札幌）と地方協議会間とする。

6) おわりに

昨今の情報の多様化と迅速化は、社会をもリードしかねない勢いである。我々は、多くの情報を技術士の素養として資質をたかめる必要がある。そのための有効な手段としてCPD活動（生涯学習）が極めて重要である。ここに、それらを支援する方法としてeラーニングを試行し、その結果、遠隔地学習が

効率的に進められることを期待するものである。

最近、eラーニングは、各種学会などでも取り組まれており、それらの種々の学習パターンとも連動させたいと考えている。

eラーニング特別委員会の活動は、当面2カ年を目標とし、その中で集積された成果が求められている。

会員各位におかれましては、是非とも多大なるご支援とご協力をお願いし、実りある結果を得たいと思うところである。

（文責：eラーニング特別委員会
委員長 松井 義孝）

